

第6回竹原市立学校適正配置懇話会 議事録

午後4時00分開会

1 日 時 令和3年12月21日(木)

午後5時15分閉会

2 場 所 竹原市役所 3階 第1・2委員会室

3 議 事

- (1) 小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非について
- (2) 答申(案)について
- (3) その他

○山口係長

本日は、お忙しい中、第6回竹原市立学校適正配置懇話会に御出席いただき、ありがとうございます。前回同様、発言する際には、マイクを使用させていただきます。それでは、会議を始める前に資料の確認をさせていただきます。郵送でお送りしたのが、「本日の次第」、「懇話会スケジュール」、「答申(案)」、「答申(案)の概要版」で、本日机の上に置いていたのが「配席表」と賀茂川中学校のキャリア教育文部科学大臣表彰の資料となっております。また、「答申(案)」の表紙と8ページ、及び「答申(案)(概要版)」に一部誤りがありましたので、差し替えを置かせていただいております。大変失礼いたしました。資料は以上になりますが、資料がない方は、おられませんか。それでは、「懇話会スケジュール」をご覧ください。スケジュールを一部変更しております。本日、諮問事項(4)について、再度御協議していただいた後に、答申(案)の協議を行います。今後も進行状況によっては、スケジュールを変更する場合がありますので、ご了承ください。よろしく申し上げます。また、これから答申の協議に入っていく上で、改めてのお願いがございます。第1回の懇話会の冒頭にも申し上げましたが、この懇話会は、議事の円滑な進行と委員の皆様からの忌憚のない御意見をいただくことを目的として、非公開で行っております。会議の内容については、答申をいただいた後に、委員の方のお名前を伏せた形

で議事録等を HP 等で公開する予定としております。そのため、この会議の内容等につきましては、答申をいただくまでは、口外されませんようよろしく願いいたします。それでは、ここからの進行は、小原会長にお願いしたいと思います。小原会長、よろしく願いします。

○小原会長

ただいまから、第6回竹原市立学校適正配置懇話会を開催いたします。まず、始めに議事（1）小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非についてです。前回懇話会でも御協議いただきましたが、時間切れとなったため、再度協議するものです。この議事に関して、質問・意見等ありましたら、お願いします。なお、答申（案）では14ページ、（3）学校選択制の見直しと指定学校変更制度の拡充については、この議論を踏まえた上で、書かないといけないところですが、あらかじめ整理をしていますので、参考にしてください。

○小原会長

御意見・御質問がないようでしたら、議事（1）については、前回協議いただいた内容で進めさせていただくということで、最終的にまとまったものが答申（案）ということになります。この（2）答申（案）については、お配りしている答申（案）を基に協議を行いますが、すでに目を通していただいていることを前提に、先に御質問をうかがって、それがなければ全員に御意見をいただいて、最終的にまとめていきたいと思っております。御質問はありますか。

○小原会長

ないようですので、具体的な協議に入らせていただきます。今回は、全員に発言していただきます。それぞれの委員さん方が気付かれたことはどこから入っていただいても結構ですので、御意見をいただければと思います。委員さんに順番に述べていただいて、最後副会長さんに述べていただくという順番で進めさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。意見が出て、議論が紛糾するということがありましたら、また次回以降に持ち越しということもあり得るかもしれません。それでは、順番に御意見を述べていただきます。

○委員 少ない回数、時間の中で、よくまとめておられるなど感心しております。特段、異論はありません。

○委員 前回までの説明から感じた私見を言わせてください。賀茂川学園の統合について、前回の懇話会で、教室数の関係で前期課程については荘野小学校の校舎を使って、後期課程については賀茂川中学校を想定しているという話がありました。あくまで私見ですが、吉名学園が設立された時は、少しでも長く学校を存続させたいということで始まったことだと思いますが、賀茂川中学校区においては、分離型の学園を作ってもすぐにまた次の統合が近づいてくる状況で、もう始まる時から統合が見えている状態であること、また今後も児童生徒数が増える状況があまり見込めないということ、学園を作ったとしても吉名学園、忠海学園のように一つの場所で前期課程・後期課程ができるわけではないということ、それから中学校においてもクラブ活動の選択が限られるということ、適正人数も確保できづらいだろうということも考えると、賀茂川小学校という形で今の賀茂川中学校の場所に小学校を作って、竹原中学校に進学するという形をとる方がより適正人数にふさわしいのではないのかというふうに総合的に考えて個人的にはそう思います。

○小原会長 統合再編の手続きとしては、第1段階と第2段階とするのではなく、いずれ第2段階が来るのなら、1.5段階というか少し先を見たプランが必要ではないかという御意見ということによろしいでしょうか。

○委員 どちらにしても、吉名学園・忠海学園のように一つの場所で学園ができないのであれば、もう1.5段階の先に進むことが順当ではないかなと思います。中学校においてもクラブ活動の選択の余地も少ないような学校であれば、最初から小学校を賀茂川小学校という形で賀茂川中学校の場所に設立するというのも一つの案なのではないかなと思います。

○小原会長 事務局から発言をいただく前に、基本的にこの懇話会は全てに超越する組織ではなく、諮問を受けて、竹原に生まれ育った子供たちの未来を考え、

こういう中学校単位のブロックを中心としたコミュニティ・スクールを進めている、これをやっていくことが必要ではないかと考えるもので、その具体的なプランについてはまた別の組織が作られて、そこでは住民の理解も得られるようにしっかりと教育委員会は説明をして、この竹原の地域に最も適したプランを進めていってくださいというのが、「おわりに」書いてある私が込めたことです。従って、今の御意見は本当に前向きな御意見だと思うんですけども、具体論としてそこまではこの懇話会で踏み込めないのではないかと会長としては思っています。

○委員 これはあくまで一つの提案としてということですので、この懇話会で出た一意見として少し残しておいていただけたらありがたいです。

○小原会長 事務局の方から何かありますか。

○沖本次長 考え方につきましては、先ほど小原会長が言われたように、懇話会から答申を受けて我々が主体になって適正配置の計画を作っていく、そしてその後進めていくという形になりますので、あくまでも今回は考え方、方向性をこの答申の中で整理していただくということで御理解いただければと思います。

○委員 3ページの表ですが、東野小学校が竹原ブロックに入っていますがこのままでよろしいでしょうか。次に、財政の問題です。各地で長寿命化計画が出されていて、竹原市も出されています。財政が厳しい状況だということについて、この会でずっと頭の中で葛藤がありました。教育的な視点からということで諮問をいただいているので、できるだけそこをよけながら考えてきました。4ページの(4)ブロック制の課題についての意見ですけども、ずっと会の中で義務教育学校化というのが一つの大きな柱になって論じられてきたと認識しておりますが、4ページにはいわゆる質の高い教育を展開し、学校づくりをすすめる、これは地域の保護者から一定の評価を得ている。しかし、通学距離や安全上の理由、児童生徒数の偏りとかからブロック制再編の見直しが必要になってきたと書いてあります。ただ、

義務教育学校化をすすめるということを考えてみると、ブロック制の再編というのは果たして必要なんだろうかという思いがしております。それと、通学距離や安全上の理由について、義務教育学校化や統合再編というのが今後想定される訳ですが、そうなれば、ますます通学距離や安全の課題は大きくなっていくと思います。だから、逆に言えば、安全上の課題が大きくなっていく方へ進んでいる。今までの会においても通学はどうするんだという各委員さん方の思いもあって、ブロック制の再編というのはどうなのかなという思いが個人的にはあります。それから竹原市が目指す子供像というのが6ページにありますけれども、これは竹原市教育大綱の中で基本理念を示され、まず「生きる力」を育成し、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成、それに関連して必要な環境整備を行い、教育上特別な配慮を必要とする児童生徒への支援をしていくという大きな目標を掲げておられて、私もそういう思いで、そこは本当にすばらしいなと思っております。その中で、今まで懇話会の中では、特色ある学校づくりというものが論議されて、実際に学校訪問しながら、特色ある実践を目にしてきました。特色ある学校づくりはもちろん必要で、そこには地域との協働が大きな力を発揮するものだと考えております。けれども、竹原市の教育大綱が示すとおり、ベースになる「生きる力」、それを育てるための個別的なあるいは協働的な学びというものをいかに作っていくかという一番の根本を見失ってはいけないんです。それがベースにあってこそ、特色ある学校づくりができると理解しております。特色というのもよくわかるんですけれども、一番の基礎の部分在今后とも継続して身につけて、力をつけていかないといけないなという思いでおります。そして、4のコミュニティ・スクールについてですが、10ページに各校の特色ある取組が載っています。今までもいろんな資料で各学校の特色ある取組が紹介されましたが、これを見ると、吉名学園と竹原西小学校については、地域との協働でどういうものを目指しているのか非常にわかりやすくまとめられてい

るんですが、それ以外の学校についてはイベント的なものが羅列してあるだけで、言葉だけではそれぞれの学校が地域の協働によって目指す特色ある学校づくりの全体像がなかなか見えてきません。私は忠海学園の学校運営協議会におりますので、例えば忠海学園は、ハワイ州イリマ中学校とのオンライン交流とか大学教授によるオンライン授業と書いてあります。世界・地域・家庭・学校をつないでいくグローバルスクール構想というものが忠海学園の特色なんですが、説明抜きにこれだけ書いてあると、何のためにこれをやっているのか見えてきません。答申として出される場合に、それぞれの学校が地域との協働によってどのような特色づくりを目指すのかということがもっとわかるように整理していただきたいと思います。そして、どこに表現していいかわかりませんが、竹原市の全国学力・学習状況調査では、将来の夢を持ちとか地域や社会について考えるという質問に肯定的回答の割合が大きくて、本当に素晴らしいと思います。こうしたものを主体的に生きる力とどうつなげていくか、例えば、学校の課題はどうするのか、前に会長さんがおっしゃった夢を実現させるということへつなげていくためにどんな力をつけていくのか、どういう課題があるのかというところに切り込んでいくためのシステムというものが今後重要になっていくんじゃないかという思いでおります。それから（２）市立学校における可能性についてなんですが、再度言わせていただきたいのですが、コミュニティ・スクールの場合に、地域との協働というのは非常に大きな役割を果たします。それは学校だけでなく地域づくりにも大きな影響があります。東野小学校は地域とすごく関わっていて、学校の活動を支援する人から、それが生きがいにつながってるんだという声をいただいたんですけれども、まさにそうだと思うんですね。学校が地域を作るという側面も決して忘れてはならない。そうしたものを考えていかないと、このコミュニティ・スクールというのは、なかなかうまくいかないんじゃないかという思いはあります。それから、前回時間がなくて意見が言えな

かったんですが、竹原UCというのを会長さんから示されて、これも一つの選択肢ではないかなという思いで聞かせていただきました。ただ、苦手な部分なんですけれども、答申（案）の中にも「Society5.0」ということも書いてありましたけれども、竹原の子供たちがどこに住んでいても等しく教育を保障されるというか、そのためには竹原版UC、竹原学園という名称の中で吉名校、竹原校、賀茂川校、忠海校というものの中で、4つの学校がそれぞれが「生きる力」を育むようなシステムを作り上げていって、さっきの「Society5.0」とかいろんなものを使った教育ができるんじゃないかと思ったりします。それと同時にそれぞれの地域が目指している特色ある学校づくりのベース部分と竹原版のベース部分とそれぞれの地域の特色をうまく融合できるようなシステムができないものだろうかと思えます。ただ、UCの場合は、それぞれある程度独立した形で運営されるんじゃないかと思うんですけれども、どこまで独立した形にするのか将来的には大きな課題になるという思いでおります。14ページの学校選択制について、ここには特色ある教育に賛同して校区外から転入学が可能とありますけれども、そうすると学校選択制は保護者も一定程度理解し、賛同されているので、そうした選択ができるという余地が残されて、この答申の中で残されるのかどうか。これを幅広く考えてみれば、小学校でも中学校でも選択が可能であるという文面にとらえられるんですが、指定学校変更制度が中学校、後期課程にいく時だけでなく、いつでも可能になるのかどうか意見をお聞かせいただければと思います。もう1点ここには出てこないんですが、いわゆる不登校の子供たちをどういう形で保障していくのかということで、竹原市内でも、不登校の児童生徒がいるというのは聞いております。その子供たちにどういう教育を設定するか、全ての子供たちに等しく教育を保障していくのであれば、まずはそこへ本腰をいれていくということもいるんじゃないかと思えます。それから最後に、もう1点。最初の会の中で〇〇委員さんが中高一貫のことを言われたと思うんですが、

残念ながら時間がなくて、論議できませんでした。保幼小中高までを含めてどうするのか。竹原の場合も竹原高校、忠海高校2校ありますけれども、非常に厳しい状況にあると聞いております。けれども、一方では小学校を卒業した段階で市外の中高一貫校へ進学する子供もいると聞いています。個人的な思いとすれば、義務教育までは地元で過ごしてもらいたいのので、竹原で頑張ってみようという子供になっていくことを願っております。市外への進学を否定するものではありませんけれども、そうした高校までを見通した、竹原市の教育をどうしていくのかということもどこかの段階で議論をしていく必要があるのではないかと思います。

○小原会長

大きく8点くらい言われたと思います。個別にはいろいろと私もお答えできるところがあると思うんですが、全体としては〇〇委員の思いをできるだけ全部取り入れるように頑張って書いたという思いなんです。まだまだ不十分だという御意見は甘んじて受けないといけないと思っています。従って、今の御意見を踏まえて最終的には事務局と会長の方でどこまで盛り込めるかはすり合わせをさせていただいて、時間がない中ですがけれども一応、もう会議は開けないので持ち回りのような形で、郵送でやり取りしていただいて最終的には了承していただくという手続きを取らないといけないのかなというふうに会長としては思っています。それから、1点目の3ページのところのブロックに誤りがあるのではという点については、事務局どうですか。

○沖本次長

修正します。

○小原会長

では、ここは修正するというので、中高一貫校とか冒頭に竹原の大きな教育力は高校を2つ持っているということで、こんな市はそうないのでそういう教育力とどうつなげていくのか、あるいは保幼小、もっと言えば就学前の教育と学校教育をつながないと子供の力は伸びていかないというのも、おっしゃるとおりで、従ってそのことも強く意識しながら議論は、話し合いは行ってきたつもりではありますけれども、諮問されていないこ

とまで答申できないので、不登校の問題もそうなんですけれども、本当に重要な問題ですけれども、この答申ではあまり触れていませんが、思いは〇〇委員と同じ思いだということです。それから、ブロック制とか、コミュニティ・スクールとかその概念自体、本当の竹原版なのかという、それは、なかなか痛いところを突かれていますけれども、先ほどのそれぞれのブロックで、例えば指摘された特色ある教育としてあがっている中に、吉名学園についてはICTとか未来というのがキーワードですし、忠海はグローバルと言いますか国際性というのがキーワードで、今日配られたプリントを見ると賀茂川中学校区はどちらかというとキャリア形成、なりたい自分をみつけていくとか夢の実現とか、私はこれが一番好きなんですけれども、竹原だと歴史や文化を大事にしたとかそんなふうになっていけばベストなので、そういう教育を育てていくためのコミュニティ・スクールと考えることもできるので御指摘された点が、ばらばらになってもいかにして統合して力を発揮していくかという方向性は〇〇委員とほとんど同じ考え方だというふうに思います。通学の安全の件はもうこれは最も重要なことなので、それはこの会では触れるとするとやはりそのことも配慮してとかいうようなことを一言入れる必要があるのかなというふうに思っています。今出た意見を踏まえて事務局と協議して修正できるところは改善していきたいなと思っております。ありがとうございました。

〇委員

答申（案）について、一読させていただきました。高田教育長の諮問に応じた内容を順序良くまとめられているなと感じました。そして、学校訪問やアンケートの結果等も踏まえた内容となっており、また、添付資料もしっかりと添付していただいていると思いますので、特に問題はないと思います。私も北部の方なので、先ほどの〇〇委員の言葉が強く思っています。どうしても竹原市立学校の統合再編スケジュールに注目しました。北部は本当にもう児童生徒数が少なくなっていますので、令和4年から令和13年の間のいつになるのかなというのが私もちよっと心配ではある

んですが、先ほど会長が、詳しいことは今から事務局の方でいろいろ進めていくんだということをおっしゃったので、それで進んでいってもらいたいなと思いました。

○委員

私も全般的な話の中には、特に意見を申し上げることはないのですが、1点、14ページの統合再編スケジュールの中で、統合①や統合③の下に注意書き程度で、複式学級になるか児童数が48人を切った場合とか、人数的なところが書いてありますけれども、実際に複式学級になったという段階ではなくて、なる前に当然統合を検討していくことが必要だと思います。アンケートでもありましたように、20人程度という規模はどうするかという問題はありますが、やはり2学級程度を維持できるというのが本来あるべき姿ではないかという話の中で、複式学級が見込まれる段階で早めに議論を開始していただいて、複式学級になるかならないかの時には、次のステージに進んでいっているという形に、このスケジュールの書き方の部分を少し工夫していただければいいかなと少し思いました。それから、体裁の話なんですけれども、12ページの上から4行目の「この先には、」というところからずっと図2についての説明が始まっていますので、「この先」の前に下にある図1を入れた形のほうがスタイル的にはいいと思います。あとは、本当に細かくて申し訳ないんですけども、言葉として「いく」と「ゆく」が混在しているので少し整理があった方がいいと思いました。

○小原会長

全て取り入れさせていただいて、修正する必要があると思いました。「ゆく」のことも図の配置のことも相手に伝わらなければ意味がないので、大事だと思いました。それから15ページの「おわりに」で、私から教育委員会に期待するというか注文を付けているところがあるんですけども、最後のパラグラフのところですか。適正かつ速やかな通学区域の調整や、急速な変化にも対応する統合再編計画のデザインがなされるように常に社会の変化の動きに即応するようにしてくださいというふうに言ったのは、

今、〇〇委員が言われた思いと同じことです。直せるところは早急に直していくことで対応したいと思います。事務局よろしいでしょうか。

○委員

会長を始め、専門性の高い皆様の御尽力により答申（案）をまとめてくださり、ありがとうございました。まず、細かい気付きなのですけれども、3ページの表1の先ほどの東野小学校の位置の指摘があったところですが、賀茂川ブロックにある竹原中学校が東野小学校の位置なのかなと思いますので、そちらも御確認いただけたらと思います。それから、10ページの表3賀茂川中学校の特色ある取組の「探求的な学習」の「求」の漢字は研究の究ではないかと思いますので、御確認をよろしく願います。それから、感想になりますが、少子化の現状を踏まえ、やはり市全体で学校運営協議会制度を中核とする義務教育学校へと段階的に統合再編していくという未来に向けて、校長としては各校の学校運営協議会を充実させていきたいと考えました。やはりいずれは地域と共にある学校づくりの地域を広く捉えて取り組んでいく必要があると感じたところです。

○小原会長

ケアレスミスは直すとしまして、以前〇〇委員さんも言われましたが、地域が学校を支えるということから進んで、竹原の場合は学校が地域を支えるという、そこを何とか生かせないかというので、特に北部の方では、学校自体がなくなるかもしれないんですけど、学校が持っていた地域を支えてく教育的機能は何としても残せる方向でというのがこの竹原プランの苦労した点です。そのために、それぞれの地域の学校運営協議会のような組織をそのままに子供たちがふるさとの伝統的な行事も支えていけるように、そういうものを残していこうという取組なので、そのことを端的に指摘されたのではないかと思います。うまく表現できるように工夫したいと思っています。

○委員

答申（案）については、必要な視点を抑えられて数値的根拠等をあげられながらの内容で、非常にわかりやすくもあるし、納得できる中身かなと思います。やはり、どうしても再編スケジュールについては非常に気にな

るところで、児童生徒数の単純な数字だけの考え方というのは難しいのかなと思います。私は中学校ではあるんですけども、部活動の中で、なかなか人数的に成立しない部活がすでに各学校で出ている実態があります。その中で、この辺をどのように考えていくかという難しい問題もあるし、これは今後さらに各学校または竹原市の中でも大きく考えていかなければいけない、全体の人数だけでは計れない問題となってくるのかなとも感じております。昨日テレビのあるクイズ番組を見ていた時に、子供たちの習い事について今一番何を習いたいかというところで、私が予想したものは全部外れていました。第1位が動画編集に係る習い事、第2位がダンス、第3位がプログラミングで、これはもう私の認識ではとても理解できなかったなと思いました。今から5年10年前から、これから大きく社会が変化していくという認識の中でやってきましたけど、自分の想像を超える激変的な現状で、これからもさらに大きく変わっていくのかなと思います。そういった意味で言うと、学校施設の老朽化というのはトイレや安全面を考えても非常に重要な問題であると思います。そういった社会が非常に大きく変化していく中で、子供たちの求めるニーズ等も大きく変わっていくということを考えた時に、果たしてそういった環境は子供たちが学んでいく将来につながっていく環境にあるのかと考えると、この再編に関しては、やはり必要な内容で考えていかなければいけないのかなと、個人的には強く感じているところです。ただ一方で、今まであったものがなくなっていくという地域の思いも非常によく理解ができるんですが、ここは考え方・見方を変えていかないと今までの考え方だけでは難しいのかなとは思っています。これは府中市のコミュニティ・スクールの全国大会で言われたことですけども、完全になくなるわけではなくて、その学習の場を時々その地域に返していく考え方でやっていけば十分できるというのは、非常に私の中で印象強く残っています。統合していくということは地域から全く学校がなくなるという考え方ではなく、地域が目指す地域の子供の育て方と

いうものをどういう形だったらできるのかという視点をもって、必要な環境であるとか学びというものを考えていくことが、竹原市がコミュニティ・スクールを進めていくうえで大切かなと思っています。なので、このスケジュール的などころに関しては、果たしてこの内容がどうかというところはさらに議論を深めていく必要はあるかなと個人的には感じているところです。

○小原会長

動画編集とかプログラミングは、確か吉名学園でやっているんじゃないかと思います。私は読売教育賞で審査員だったんですけれども、発表を聞いたこともありますし、全国大会で最優秀賞を取られました。ですが、プログラミングも動画編集もたぶんもう20年先にはAIが全部やってくれるようになって、それももう古いということになっていくかもしれません。そうすると人間が扱う職業で残れるのは何なのかという本が最近よく出ているんですが、そこに出てくるのはコミュニケーションと決断ができる、意思決定ができるというのはAIではなくて、問題を解くのはAIでも、どういう問題を解かせるか、どういうキーワードでその問題で人々を幸せにするかという問いを作るのは人間しかできないし、相手が優しい気持ちになれたり、競いながら切磋琢磨して伸びていくというコミュニケーション、元気が出るようなコミュニケーションはAIの時代になっても必要になってくるのではないかと思います。そういう点で言うと、アンケート結果で竹原市の保護者の方々の期待の中にコミュニケーション、表現力が出てくるというのはやはり人間として普遍的に大切なものは大事にしてほしいという思いが強くあるのかなと思っています。私はそのクイズ番組は、もっと先を見る必要があるんじゃないかなと思います。もっと先を考えてみたら本当に大事なものは昔から一貫して変わってない、地域を大事にするとか地域の人々のコミュニケーションを強めていくというのは防災教育の上でも、祭りがなくなったら防災は成り立たないというのと同じように大事なものになるのかなというのが、今回竹原市のこの懇話会に

参加していろんなデータから私なりにはすごく感じました。そういう点では、コミュニティ・スクールで何とか竹原市の子供を育てようとしている教育委員会のやり方というのは、回を重ねる度に、遠くに見えていた明かりがだんだん近づいてきたなという思いがあったので、「はじめに」と「おわりに」の部分はそんな表現をさせていただきました。〇〇委員の言われたことが、実現できるようなプランにぜひ教育委員会の方では、努力していただいて具体的に行動をされることを期待したいと思っています。

○委員

基本的には、諮問を受けた内容で考えられた答申ですから、方向性について、私は特に異論はないと思っています。ただ、あくまでも20年後と言いますか、児童生徒数が減少するという予測を前提として、こうした考えが始まっていると思いますので、予測通りに行かない時のことも備えて、ある程度柔軟に対応できるような形にさせていただけたらと思います。諮問内容とはずれるんですが、先ほど〇〇委員がおっしゃったように、最初から高校を含めた学園構想が竹原市には将来的に必要なだと思いますので、そういったことも踏まえて柔軟に対応しできるような内容にさせていただきたいなと希望します。

○小原会長

可能ならそのこともどこかで触れられたらというふうには思います。将来的には高校も含めた竹原学園構想というのが必要になるのではないかと、あるいはあくまでも予測なので、奇跡が起こるかもしれませんのでそういう社会の変化に柔軟に対応することとかそういう表現を入れることはできるのかなと思います。

○委員

答申（案）については、全体的には皆さんがおっしゃったとおりの内容で、私も同様なんですけれども、3ページの児童生徒数の推移の図を見ますと、統合再編については学校選択制かブロック制の導入をせざるを得ないと思いました。

○小原会長

申し訳ないですが、「おわりに」のところに書かせていただいたんですが、私がこの会で一番大事にしたいと考えていたのはデータでも予測数字

でもなくて、この実際、竹原の教育を支えられている委員さん方がどうい
う思いで結論を出していくかということです。こういうふうに児童生徒数
が減っていくと、全国的なことですけれども母校や学校がなくなっていく
一方で、子供たちには未来があって、先ほど〇〇委員さんが言われたよう
に子供たちの未来のための教育もやっていかないといけないという中で、
どちらかを取るのではなくて、どちらも両方大事なんだというのを生かせ
るような答申にならないかということで、苦慮したところです。そういう
点で言うと、〇〇委員さんが発言されたものを重く受け止めております。
本当はそうならないような、むしろ竹原の子供たちが増えていくような政
策こそ本当は竹原市には必要なんでしょうけれども、その事実を見て答申
は考えざるを得ないというところの苦しさもあるんだろうというふうに
思います。

〇委員

私も皆さんがおっしゃられるように答申（案）は、適正なあり方として
方向性はとても理解ができますが、あくまでも頭で理解できるということ
で、心の方は大変複雑でございます。ここからは私見として聞いていただ
ければと思います。先ほど学校が地域を作るというお話が出ましたが、ま
さに私が住んでおります東野がそうございまして、学校と地域のつなが
りは切っても切れないものです。最初にコミュニティ・スクールができた
時に校長先生から、地域に戻ってきたいと思える子供を育てたいという話
を聞きまして、これは戻ってくる子供たちのために東野を守っていかなく
てはいけないと決意をしたわけなんですけれども、前回最短で令和6年に
再編されるという話を聞きました。実は東野は令和5年に東野保育所がな
くなります。そして、次の年に東野小学校がなくなるということは東野が
疲弊するのが目に見えているような気がしますので、これから事務局の皆
さんをお願いしたいのは、地域の方に説明されると思うんですけれども、
心に寄り添って丁寧な説明をしていただければと感じております。そして、
コミュニティ・スクールというお話が出てくるんですけれども、地域には

伝統行事というものがあまして、それを小学生たちがずっと継承していつてくれています。例えば、東野には盆踊りがあります。荘野にも盆踊りがあります。それぞれ違う踊りを子供たちが継承していつてくれています。そして、和太鼓などもずっと継承しているんですが、そういう伝統行事に關してもやはりこれからどうしていくのか考えていかなければいけませんよね。地域の方に寄り添っていただけたらと思います。

○小原会長

深く受け止めて、最終答申に持っていきたいと思います。

○委員

こうしたコロナ禍の中でも、この会議はかなりタイトなスケジュールの中でこうした形でしっかりと粘り強く議論がされて、いつも子供たちの未来や地域のことを考えながらお話が進んでいったことや、今もまさにそうした御意見を拝聴しながら、またリミットもどうしても出てくるところもあるとは思いますが、節約できるところは節約して、地域と共に先生方が一生懸命子供たちと一緒に優れた教育活動をされていることに常に思いを抱きながら、また先ほど会長がおっしゃられた元気の出るようなコミュニケーションが活性化していくことが、すなわち魅力的な学校づくりをとおした地域づくりになっていくんじゃないかなと感じております。

○委員

まず、もし可能であれば3ページと14ページの表のブロックの順番を揃えていただいたら、見やすくなるのかなと思います。統合の矢印の関係で難しければいいかなと思うんですが、順番が揃うと見やすくなるのかなと思いました。内容につきましては、予想された内容で、諮問された内容通りの答申（案）にされていると思います。今後の北部地域の動きが一番最初になろうかと思うんですが、冒頭話がありました賀茂川中学校で義務教育学校を作るには教室数が足りないから分かれてという形が想定されるというのがあったんですが、せっかく義務教育学校を例え10年でも、予想されている中であっても、やるのであれば教室の中を上手に仁賀小のようにパーティションで仕切るとかいうやり方も可能性として考えられないかと思いました。教室数だけ見て最初から無理じゃなくて、賀茂川中

学校で一つの学校になるような工夫ができないかと思います。また、私の経験上、吉名学園ができた時に旧吉名中学校と違って教室も廊下も非常に明るくなって、保護者としてもわくわく感がありました。子供たちにとってもそのわくわくするような、学校が新しくなれば、そこが地域の新しい拠点になる可能性を秘めていると思いますので、一番早い動きになるであろう北部の動きに対してはそういう思いを含めていただければと思います。

○小原会長

大きく3種類の御意見があったと思っています。一つは、字句の修正とかあるいは事実とは違うので修正が必要ということで、これは必ずさせていただくということにいたします。2つ目は、答申（案）の前段の趣旨は理解できるので、その趣旨を生かした上で、例えば先ほどの副会長さんの御意見のように、ブロック制の中学校ブロック単位での義務教育学校、コミュニティ・スクールとしての義務教育学校、小中一貫教育を進めていくのが趣旨であるなら、何とかしてもっと工夫をして同じキャンパスで学べるようにというのは、何名の方からも意見がありました。実際は、そういう工夫を期待するという表現になるかもしれませんが、そういう御意見を何とか踏まえて、表現上工夫できるところはしていきたいと考えております。それから3つ目は、今回の答申の範囲内、諮問では求められていないけれども、竹原市の未来の教育を考えた時に、就学前の教育から始まって高校までの保幼小中高一貫教育というものを視野に入れなれないといけないのではないかと、あるいはあまり拙速ではなくて、きちんと地域住民への理解や説明を十分果たして丁寧に進めていくようにという、諮問には直接関わりませんが、そういう内容については、事務局と協議をして、どういう形で入れられるのか、あるいはやはり難しい場合は、答申を渡す時に他の委員さん方の御意見はこういう意見もありましたという形で口頭で教育長に申し上げるというのもあるかと思うので、その辺りは事務局と会長との打ち合わせでらせていただければと思

います。いずれにしても、今日出た意見については、全て検討させていただいて、最終プランの1つ前というのを作らせていただいて、事務局、郵送でもやり取りは時間的に可能ですか。それで、了承していただいた上で、それでも最後の最後あるかもしれませんが、最終は2月を予定されているようですから、そこでは単なるセレモニーだけではなくて、一応全体での了承を得たうえで、答申を教育長にお渡しして、そこでもまたさらに、御意見があるようでしたら、常にこれはフィードバックするんじゃないくて、より良いものにフィードフォワードしていけばいいので、この時点の答申ですからさらに追加してこういうふうな意見を述べるということはあるかと思います。そういう扱いにさせていただきたいと思います。時間的にはもう少しあるんですが、御意見はありますか。

○委員

表5の再編のことばかり頭にあって、安心しました。答申（案）の14ページの（3）ですけれども、その他の部分についてはスムーズに読むことができましたんですが、14ページの（3）の全体像が、個人的な思いなんですけれども、わかりづらいという印象がありました。よく読めば、学校選択制度は今中学校でしてるんだけれども、今の指定学校変更制度で十分対応できるということはよくわかります。

○小原会長

実質的には、今の制度で保護者のニーズには応えられるんですけれども、一応コミュニティ・スクールとして義務教育学校で小中一貫教育を進めていく上で地域をベースにしているので、学校選択制が要るとはなかなか言えないので、原則できませんが特別なニーズあるいは要望がある場合の対応は今の制度でもできますという、説明になっています。でも、逆にそういう質問が出てきた方が教育委員会としても説明ができるので、かえって理解を得やすいと思います。あるいはもっと進んでいけば、それぞれのブロックで、先ほど特色ある教育と言われましたけれども、意外に特に義務教育では出てこなかったんですが、私すごく重視しているのは知徳体プラス芸術です。芸といいますか芸能、落語でもいいんですけれども、これか

らの時代は知徳体だけではなく、もっとアートとか、そういう心の豊かさとか感動とかいうのも必要なので、そういうものやってくれる学校に子供を通わせたいということがあれば、それはまさに本物の選択制だと思いますけれども、そういうものもコミュニティ・スクールから目指してもらいたいなという思いはあります。

以上をもちまして、第6回竹原市立学校適正配置懇話会を閉会いたします。

令和3年12月21日 午後5時15分閉会